

地域における食育活動の活性化に向けて

—食育推進連絡会議の取組—

東部保健福祉事務所 成人・高齢班 技師 野澤 礼子

Key words: 顔の見える連携づくり, 双方向の意見交換, ニーズのマッチング

I はじめに

石巻地域住民の食生活は、震災後の環境変化や心理的要因により大きく変化しており、地域の復興を目指す上では食に関する関係者のネットワークづくりが重要である。しかし、関係者の連携を深める目的で実施している「食育推進連絡会議」では、これまで参加者の連携につながる持ち方となっているかについて不明確な部分があった。

そこで、今年度は関係者の“顔の見える連携づくり”をテーマに会議の持ち方を見直した。ここではその実施状況と、そこから見えた今後の同会議のあり方について考察する。

II 活動内容

i これまでの会議

主な内容は事務局からの事業説明で、参加者は最後に活動状況を説明する流れ。

1人の発言時間は限られ、参加者同士の意見交換につながりにくかった。

ii 今年度の会議

会議の内容は図1参照。グループワークと全体協議に多くの時間を割き、参加者の双方向の意見交換を重視した。また、グループワークの前にアイスブレイクの時間を設けたり、グループワークのテーマをどの出席者にも共通するものに設定するなど、参加者が楽しく意見交換ができる雰囲気づくりに配慮した。併せて、参加者が会議に参加する具体的なメリットをつくるため、事前に参加者から“食育活動のニーズ”と“連携したい相手”の情報を収集し、ニーズのマッチングができるようグループを組んだ。さらに、全体協議の場面で、各グループから出されたアイデアや要望に関する参加者に意見を求め、ニーズのマッチングを図れるよう進行した。

iii 実施結果

① 参加者が連携づくりに積極的になった

会議中、当会議の開催回数の増加や、関係者の連携システムづくりに関する要望が多く出された。また、会議後のアンケートで、6割の方が「今後会議に参加してほしい団体がある」と回答された。

② 食育活動に関する連携のきっかけとなった

幼稚園の先生から、「農業体験の指導者を探している」という要望に対して、関係機関から「指導者の派遣可能」との情報が得られるなど、活動のニーズに合う相手を見つけ、具体的な活動のきっかけとなる場面になった。

③ 参加者の満足度が高かった

会議後のアンケートでは、全員が「とても満足」「やや満足」と回答(図2)。

- | | |
|-----|-----------------|
| 1 | 意見交換の進め方(説明) |
| 2 | グループワーク |
| (1) | アイスブレイク |
| (2) | 食育の取り組みのうまくいった点 |
| (3) | さらに食育を推進していくために |
| 3 | 全体協議 |

図1 今年度の会議の内容

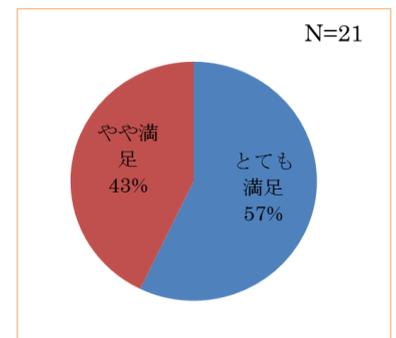


図2 会議の満足度

III 考察

今回の会議では、“双方向の意見交換”と“ニーズのマッチング”に配慮し進め方の見直しを行った。これにより、参加者同士のやりとりが増え、お互いについて理解を深めることができ、連携のきっかけとなった。また、会議の多数開催の要望が出るなど、参加者が積極的に参画していたことも大きな変化である。当会議に関係者の連携づくりの役割を期待していた参加者にとって、今回の会議はその期待にうまく対応でき、満足度の高さにつながったと考えられる。

IV 結論

関係者のネットワークづくりを進めるためには、関係者の集まる場(会議)の設定だけでなく、“双方向の意見交換”ができ、参加者にとって具体的なメリットを得られる進め方の工夫が重要である。今後も、“顔の見える連携づくり”に配慮した会議を定期的実施し継続していくことで、健康、産業、教育分野の協働を基本とした石巻地域の食を盛り上げるネットワークづくりに取り組んでいきたい。

VI 引用・参考文献

- 1) 内閣府食育推進室(2008)『地域の特性を生かした市町村食育推進計画づくりのすすめ』
- 2) 食育推進評価専門委員会(2009)『審議経過報告書』